

19年度予算編成について



坂本 武人 議員

坂本 19年度予算編成を

伺うに際し、目下の財政状況を正確に認識することが必要である。厳しい財政難というのが一般にも常識となっているが何を以って「悪い」となるのか、具体的な数値的根拠を明らかにして頂きたい。同様に、財政健全化という目標についても、どういった結果を指して健全と呼ぶのか見解を伺います。

総務企画部長 19年度について数字を述べる段階ではない。財政計画に伴い経常収支比率あるいは公債比率を十分健全な自

治体の数値を見据えながら予算編成に入っていく形であります。

坂本 この期に及んで数的根拠を示せないという答弁に現状の認識の甘さを象徴してと考える。引いては不安を抱かせる要因にもなっている。行政の責任として、そこを明確に示さなければ、財政再建は不可能と言わざるを得ないが、どういった見か再度伺う。

総務企画部長 経常収支比率で言うと現在89%程であり市として80%程に下げる事が健全を計る上での一つの目安である。

坂本 その数字を財政計画にあてはめると早々計画は破たんしており、財政計画に基づく予算編成という考え方矛盾する。実行性のない財政計画を

見直すべきでは。

総務企画部長 財政計画に整合性が無い事は現実あると思う。19年度総合計画に沿って財政計画も見直したい。

●経常収支比率の状況

この比率は、財政構造の健全性・弾力性を測る指標であり、低いほど新たな行政需要に対応でき、町村では75%、市にあっては、80%以内が健全性の目安とされている。経常収支比率は、次のとおりである。

経営収支比率の推移表

(単位：%)

年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度 合表市
合志町	75.3	73.6	73.6	73.3	82.2	82.2	89.0	85.5
西合志町	74.4	69.5	70.4	74.3	80.0	82.8	85.0	
平均	74.9	71.6	72.0	73.8	81.1	82.5	87.0	

※この資料は、17年度地方財政状況調査による。

行財政改革についで！



丸内三千代 議員

丸内 各部、課の事業に執着しすぎて住民のニーズや新市の将来のための新事業及び事務事業の見直しが出来ないようでは、改革は出来ない。

総務企画部長 限られた予算の中で事業の選択

については、政策に沿った事業の有効性、効率性など検証しながら進めなければならぬ。

丸内 市民との情報の共有が大切と力説されているが、納税者である市民が行財政に対する理解を深める事が重要になってくるし、市民が積極的に行政に、ものを申しチエックする事が、住民自治を強めて、真の協働のまちづくりとなっていくものと考えられる。予算書を市民に、創意工夫して解かりやすく知らせる事はどうか。

総務企画部長 ホームページや広報誌を通じて提供を行っているが、今後、経費のかからないような形の解かりやすい資料を作り上げていくならと考えている。

丸内 税の確保を掲げているが、地方税改正により、税源移譲に伴う市民税の増額は、どの程度見込んでいるのか。また、市民に対しての周知をどう行っていくのか。

市民部長 18年度ベースで4億4000万円程度の増額を見込んでいる。市民の方には、広報での周知、ホームページへの掲載、申告者へ予定納税額をお知らせするようしている。企業年末調整説明会では、税源移譲による市民税の増額を説明したところです。

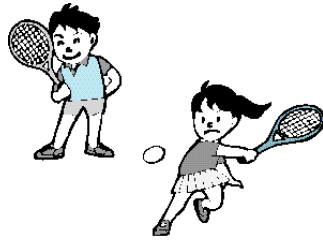


体育施設の補修は迅速に！



江副 一男 議員

江副 体育施設の不備箇所が発生した時、市民に事故が発生しないよう迅速な修理が必要。来年度予算で補修するとは遅くはないか。すぐ予備費の活用を図るべきです。補修基準に、該当する運動の体育協会の専門委員の判断の活用を求めます。**教育委員会事務局長** 基準と手順に従い、危険度と利用頻度等動案し対応していきます。



19年度予算編成の考え方を伺う

江副 合併有志市の発足後、初の本格予算編成となる。編成方針は。

市長 19年度予算編成方針を出した所です。歳入

面では税収の確保。受益者負担原則による市民の負担の検討を指示。歳出面では事務事業全般について十分な見直し。時代に即した予算の構築を基本的な考えとして指示しております。

総務企画部長 優先順位の峻別、事業は真に必要なものへ重点化する。市税徴収の姿勢の堅持。市債の厳格な管理。人件費は現状以内で対応。公共投資は国の考え以内での方針。特別会計は一般会計からの繰り入れのないよう独立採算で臨む方針を出しています。

江副 合併後の改革にはスタートダッシュが大切です。合併後の行政の取り組み姿勢は例えば、行政改革など、ゆつくりした期間対応を迅速性に欠ける。今の対応を将来のツケとしない対応を望む。

財源確保への考えは？



木村 祐一 議員

木村 自主財源の確保というところで、気持を尋ねたい。

市長 自主財源の確保というところで、課税客体を完全に踏まえ課税したものを滞納にならないように徴収率を上げていく。要約すれば、税収の確保として地場産業の育成、新たな企業誘致ということ、極力努めていきたい。

滞納対策は

木村 厳正公平な執行が必要になってくる。滞納

整理機構というのを一部事務組合で設立運営している所があるが。

市民部長 地方税債権回収機構を熊本市にも参加いただいて、菊池郡市で設立、徴収を行わなければならないかと思ってる。

交流の場を作れ

木村 若い後継者がやや増えつつあり農業発展に期待が持てる。良きパートナーとの巡り合いを促すため交流の場を多く企画して頂きたい。

産業振興部長 企業等の女性との交流も大変必要かと思っており進めていけたらと考えている。

いつ歩行者は安全に！

木村 昨年9月1日の大津植木線整備促進期成会の総会で横断歩道の位置歩道設置の要望が出た。その後の経緯は。

都市建設部長 総会が終わった時点で現場確認した。市道八通丸線完了後に協議し決定したい。



県道大津植木線